

<第12節終了時点順位表>

チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1 流通経済大学	7	2	3	24	12	+12	24
2 法政大学	7	3	2	21	13	+8	23
3 早稲田大学	7	4	1	28	19	+9	22
4 明治大学	6	2	4	18	9	+9	22
5 駒澤大学	6	3	3	20	19	+1	21
6 順天堂大学	4	4	4	20	19	+1	16
7 東京学芸大学	4	5	3	13	15	-2	15
8 中央大学	5	7	0	15	25	-10	15
9 青山学院大学	4	7	1	20	24	-4	13
10 国士館大学	3	6	3	19	22	-3	12
11 東海大学	3	6	3	16	25	-9	12
12 筑波大学	2	9	1	13	25	-12	7

★得点ランキング★

- 8ゴール 渡邊千真(早大)
- 林 陵平(明大)
- 7ゴール 兵藤慎剛(早大)
- 6ゴール 岡本達也(順大)
- 菅原康太(国士大)
- 中村祐人(青学大)
- 田中順也(順大)

★アシストランキング★

- 6アシスト 伊藤大介(順大)
- 5アシスト 大瀧義史(中大)
- 4アシスト 菊岡拓朗(法大)
- 柏 好文(国士大)
- 平木良樹(流経大)
- 池田 圭(流経大)



KO駒澤大学2×4中央大学

同点ゴールとなった高崎のヘッド
(撮影・中野成博)

試合終了後、笑顔を浮かべる中大の辻尾

食うか食われるか。

9月9日、駒大は悲壮な決意で後期リーグ開幕のピッチに立っていた。苦しい夏を過ごした。天皇杯予選・明大戦は2点をリードしながら退場者を出し、逆転負け。そうした精神面の弱さを鍛え直そうと、例年以上の練習量をこなした夏。

それだけに5分、相手のパスワークからの失点には出鼻をくじかれた。その後はシュート数で圧倒するも、無得点で前半を終了。攻勢が実ったのは60分。山内のキックが相手DFの前でバウンド、高崎が競り勝ち頭で押し込む。この泥臭いゴールが縦に早い駒大の攻撃をさらに活性化し、69分の八角の逆転弾を呼び込む。

逆転。久々に見られたこの展開に駒大応援席は沸いた。しかし、70分のワンプレーで駒大は地獄へと落ちた。オフサイドの笛が吹かれたが、高崎は動きを止めることができず右足を振り抜く。それが遅延行為と取られ、高崎は2回目の警告を受けたのだ。山内が「あそこが分岐点だった」と語る73分の中大の同点ゴールまでそう

時間はかからなかった。「一人退場してからのことがはつきりしなかった」とリーグ戦初先発の中山が語るDF陣は崩壊し、86分と後半ラストタイムに勝ち越し、ダメ押しゴールを許した。酷な判定を考慮するとしても、高崎の退場から同点、再逆転を許すまでの流れを天皇杯予選を目にした人々はどう評価するだろうか。「同じことの繰り返しだと思ふ」と語るのは途中出場場の山澤。同じ敗戦が繰り返された今、何かを変える必要がある。

「食ったぞー！」チームメイトと抱き合いながら中大のエース辻尾が叫んだ一言が印象的だ。心の底からの言葉だろう。他チームはかつて「食物連鎖」の頂点にいた駒大を、食ってやろうという気持ちで挑んでくる。しかし、もうどれだけ勝利から遠ざかっているだろうか。「駒大を食ってやろう」ではなく、「駒大は食える」、そう見られているのかもしれない。次節の相手は山内が「絶対に負けたくない」と語る筑波大。未来の「食物連鎖」を左右する、プライドを賭けた一戦となる。

(星 宏樹)